

プレスリリース

「日本の光と味ー ドナータとヴィム・ヴェンダースによる写真の旅」

ドナータとヴィム・ヴェンダース夫妻が日本で撮影した写真作品をベルリン日独センターにて展示（会期：2024年9月10日（火）～12月20日（金））

ベルリン日独センターでは、ベルリン・アートウィークに合わせ、2000年から2022年にかけてヴェンダース夫妻が日本滞在中に撮影した印象的な写真と映像作品を展示しています。

ヴェンダース夫妻は日本から深いインスピレーションを受けています。ヴィム・ヴェンダースについては、広島県尾道市で始まりと終わりを迎える名作『東京物語』（1953）の映画監督、小津安二郎が彼にとっての偉大な巨匠であったことが知られています。この小さな海辺の街を訪れた際、二人の芸術家は全く異なる視点から「尾道への旅」シリーズを生み出しました。ドナータ・ヴェンダースによる「Perfect Days」シリーズと「Komorebi Dreams」シリーズは、2024年アカデミー賞国際長編映画部門に日本代表作品として出品された『PERFECT DAYS』（ヴィム・ヴェンダース監督、2023年）の撮影期間中であった2022年に制作されました。ベルリン日独センターでは、これら一連のシリーズから代表作を展示しています。

ベルリン日独センターのユリア・ミュンヒ事務総長は、本展が急遽実現できたことに感謝しています。

「『こもれび』とは木の葉の間から差しこむ陽光を意味する日本語表現です。ドナータ・ヴェンダースが『PERFECT DAYS』の撮影中に写真に収めた「光の戯れ」を今年の春に初めて見たとき、このとても美しい写真群はベルリン日独センターの光が降り注ぐ空間に素晴らしく合うだろうと直感しました。ドナータとヴィム・ヴェンダース夫妻が即座にこのアイデアに賛同し、それを発展させ、写真展をスムーズに実現してくださったのはとても光栄なことです」。国際交流基金ベルリン駐在員を兼務するベルリン日独センターの松本健志副事務総長も、芸術家夫妻の日本に対する高い評価に感謝しています。「ヴェンダース夫妻の作品には、私の母国への真摯で深い関心がはっきりと表れています」。

ドナータ・ヴェンダース氏のコメント： ヴィムと一緒に初めて日本を訪れて以来、日本文化は私の「師匠」となりました。人間であれ、動物であれ、植物であれ、相手に高い敬意を払うこと。あらゆるものに尊敬の念と感謝の気持ちを表すこと。とりわけ、今この瞬間に集中する日本人の姿勢は、何をやるにせよ私たちがこの世に「存在すること」がいかにかけがえのない贈り物なのかを教えてくださいました。

日本を知ってから、自分たちに与えられた人生の時間をより強く意識するようになりました。日本は、私自身の人生との向き合い方を根底から揺さぶり、変化させ、形づくったのです。

ヴィム・ヴェンダース氏のコメント： 今から約 50 年前、初めて日本を訪れた時、我が家に戻ったかのような居心地の良さをすぐに感じました。世界中の他のどの国でも、そうした故郷の感覚を覚えたことはありませんでした。もちろんドイツは別ですが。私は、自分が子供時代に思い描いていたユートピアを日本で再発見しました。公共の福祉を重んじること、細部まで気を配ること、「奉仕する仕事」も高い評価を受けること。私は子供の頃、世の中をそのようなものと捉え、日本で再び巡り合ったのです。

本展は 2024 年末まで開催されています。入場料無料。アーティスト育成のためのご寄付を歓迎いたします。

アーティストについて：ベルリン生まれ（1965 年）のドナータ・ヴェンダースは、写真作家として 30 年以上のキャリアを持つ。デュッセルドルフ生まれ（1945 年）で、ドナータと共にベルリン在住のヴィム・ヴェンダースは、ドイツを代表する映画監督の一人として日本でも名高く、2022 年に日本美術協会より優れた芸術の功績を挙げた人物に与えられる「高松宮殿下記念世界文化賞」（文化芸術のノーベル賞とも称される）を授与された。

ベルリン日独センターについて：ベルリン日独センターはベルリン・ダーレム地区に位置し、1985 年に当時の両国首相の発意によって設立された。経済・学術・文化・社会・政治の各分野における日独間および国際的な交流を促進し深めることを課題としている。イベントや展覧会の他、人的交流プログラムや日本語講座も実施している。日独両政府、並びにベルリン州政府から支援を受けている。

ベルリン日独センター（JDZB）

Saargemünder Str. 2, 14195 Berlin

開館時間：月～木曜日 13 時～20 時、金曜日 13 時～15 時半。土日祝日閉館。

ウェブサイト：www.jdzb.de

ソーシャルメディア：<https://linktr.ee/jdzb.social>

報道関係者の方は当センターのコミュニケーション担当官、那須田栄までメール（pr@jdzb.de）にてご連絡ください。